

アジアの風

第1号

2001年2月10日発行

編集・発行 アジア児童文学日本センター

2001年 世紀の年頭に



しかた・しん

2001年という新しい世紀明けの年に、私たちの機関誌「アジアの風」第1号をお届けいたします。

2000年のアジアは、激しい流動の年でありました。朝鮮半島での南北の雪解けを軸に、アジアの風がさまざまに交錯しつつ、波立ち揺れた年でもありました。それがどう児童文学に反映されるか、2001年という年の始まるいま、作家の一人として肌に粟立つばかりの緊張と興奮をおぼえます。

さて、第6回アジア児童文学大会は本年8月下旬、北京市で開催されることとなりました。従いまして2003年にはいよいよ名古屋で大会を開くこ

ととなります。その頃には、子どもの名において和解と微笑みの風が、一層強まり深まっていることを心から願わずにはられません。

そのような時代を念頭に置きつつ、いま、事務局を中心にセンターの第1回定期総会と研究講演の会を準備しております。講師のメインとして、皆様もよくご存じの韓丘庸さんをお願いいたしました。今までほとんど知られていなかった共和国側の児童文学について韓さんが集められた作品をもとに、語っていただく予定です。その他、北京大会を視野に入れて中国の児童文学状況についても報告を準備しております。どうか、お知り合いの方がたをお誘いのうえ、ぜひご参加の予定を立てておいてください。2003年の大会を成功させるためにも、今の4倍の会員がほしいのです。改めてご支援のほど、切にお願いいたします。

発進! アジア児童文学日本センター 2000.10.15.



設立総会(10月15日)での役員挨拶

定期総会ご案内

第1回定期総会を3月17日(土)13時30分から、名古屋市の市政資料館で開きます。総会にひきつづき韓丘庸氏の講演を中心とする研究会を行います。

アジア諸国と児童文学・児童文化について交流を深め、その発展を図ることを目的に、2000年10月15日「アジア児童文学日本センター」が設立されました。愛知県立大学で開かれた設立総会には30数名が出席(その時点での会員は44名)、規約を承認のち役員選出を行い、会長にしかた・しん、副会長に畑中圭一、理事にはこの2名を含め、井上寿彦はじめ13名が選ばれました。なお事務局長は理事の花井都茂子です。

当面、センターは2003年のアジア児童文学大会の名古屋での開催をめざして、その準備に力を注ぎますが、同時に国内におけるアジア児童文学の振興、そのため情報の収集・発信にも努めます。どんな小さな情報、資料でも結構です。当センターへお送りください。

風のたより

日韓児童文学セミナーへどうぞ 〈仲村 修さんからの呼びかけ〉

4月14日(土)、「オリニの会」と「オリニほんやく会」の共催で日韓児童文学セミナー「日韓の児童文学を語ろう」を神戸で開きます。

内容はまず、しかた・しん氏と韓国の李在馥氏(イジェボク・オリニ文学協議会事務局長、日韓児童文学関係勉強会代表)の講演。そのあと韓国を代表する童話作家李元壽を紹介したテレビ番組のビデオを通訳つきで見る。そして最後は一人10分というミニレポートを10本、延々と続ける。これに加わると参加費1500円也が免除です! その人選はまだ終わっていないので、韓国の作品、あるいは韓国・朝鮮を扱った日本の作品を読んで、叫びたいことが沸々とわいている人がおられたら、ぜひとも手をあげてください。韓国・朝鮮の児童文学をどのようにしたら日本に定着させられるのか、みんなで考えてみたいと思います。

これで「お勉強」はおしまい。夕方からは、「オリニほんやく会」がこの数年間に出した3冊の短編童話集(既刊『子どもたちの朝鮮戦争』『日本がでてくる韓国童話集』と、近刊の『愛の韓国童話集』)の出版記念会をもちます。のどの渇きを覚える向きもちょっと立ち寄っていただければと思います。すでに札幌、東京からも参加の意思表示があり、意を強くしています。新しい世紀はベンチャーと実行の時代なのかも知れません。

なおセミナーの会場は(財)神戸学生青年センター(神戸市灘区山田町3-1-1)。問い合わせ・申し込みは仲村修まで(TEL.FAX.0798-33-9433。E-mail: eorini@h5.dion.ne.jp)。申し込みは3月31日まで。

しかた・しん会長の講演 「東アジアの風の中で」

昨年8月1日に開催された「中部児童文学セミナー2000」で、当センター会長のしかた・しんが「東アジアの風の中で—物語の構造を考える」と題して講演を行いました。李潼の『カバランの少年』や権正生の『モンシル姉さん』などを取り上げて、自然と一体化した東アジア的な生死観や“語り”という文学手法などに触れています。なおこの講演記録は『中部児童文学』第91号に掲載されています。

中国児童文学研究会の関西例会 〈関西事務局の寺前君子さんから〉

中国児童文学研究会(代表君島久子)は1960年に設立され、現在会員は約40名。例会と通信発行はそれぞれ年2回です。機関誌は11号まで発行されています。中国児童文学に関心のある方なら、どなたでも入会できます。また例会の参加は会員でなくても結構、大歓迎です。連絡先は寺前君子さん(TEL・FAX 06-6932-7581)。

なお、本年1月の関西例会は次のように行われました。

◇日時 2001年1月28日(日)午後2~5時

◇場所 大阪府立労働センター 601号室

◇発表

*小柳千春「漢詩から絵本へ—ユーリー・シュルヴィッツ作・画『よあけ』」

*十頭仁美「北京で会った作家、楊鵬さんについて」

*寺前君子「陳伯吹文学賞について」

「私の国の子どもの本・アジア編」

大阪国際児童文学館を育てる会が発行

大阪国際児童文学館では、海外から毎年数名の客員研究員を招いていますが、その中で圧倒的に多いのがアジア諸国からの研究員です。

それらの研究員に語ってもらった各国の子どもの本の状況が「大阪国際児童文学館を育てる会会報」に掲載されてきましたが、このほど、その中のアジア関係のものが1冊の本にまとめられました。同育てる会創設20周年を記念した企画です。

語ってくれているのは、韓国の李相琴さん(『半分ふるさと』の著者)、同じく朴淑慶さん、中国の彭懿さん(先駆的ファンタジー作家・研究者)、台湾の高明美さんの4人。それにこの本のための〈番外編現地取材〉として、ベトナムのファムホさんへのインタビューも掲載されています。A5判 72頁で頒価700円、送料180円。

申し込みは同育てる会事務局の上野勝子さん(TEL・FAX 072-824-3695)まで。



台北大会をきっかけに

作家たに けいこさんの国際交流

99年8月、台北市でのアジア児童文学大会に参加、「たった一つの地球」と題して私の環境問題の活動と合わせながら発表をしました。そのとき横におられたのが林鐘隆さんで、そそっかしい私のためにマイクのスイッチを入れて下さったのです。また6年前に椋鳩十文学館での交流の際に知り合った韓国の曹大鉉さんとも出会えて、とてもなつかしいことでした。帰国してから、林鐘隆さんをはじめ多くの台湾や韓国の方々に写真を送ったり、お便りをしたりして交流を深めています。

とりわけ林鐘隆さんには、『台湾児童文学季刊』の31号にお送りした「キリリン物語」という童詩集を全文のせていただき、さらに同誌33号には童話「はるかなる屋久杉」の一部を翻訳・掲載していただきました。林さんはとても山登りが好きで、環境問題にも関心をもっておられます。自然を大切にする心には国境はなく、こうした交流で他の国の人々の心を知ることができるのはとても嬉しいことです。その意味でもアジア大会は私にとって有意義なものでした。大会参加をすすめてくださった元椋鳩十文学館長の榎園氏、大会当日のスタッフの方々に深く感謝しています。

在日2世の李芳世さん 春に詩集を出版

【高 貞子さんから】

春に詩集が1冊出版されます。少年詩です。作者は在日2世の李芳世。彼は約20年間、少年詩を書いて来て、たしか『詩人』という雑誌で新人賞を受賞しています。

彼の詩は簡潔でリズムカル、そして深い抒情に

アジア児童文学大会の歩み

- 第1回 1990年8月 韓国・ソウル市
- 第2回 1993年8月 日本・宗像市
- 第3回 1995年11月 中国・上海市
- 第4回 1997年8月 韓国・ソウル市
- 第5回 1999年8月 台湾・台北市
- 第6回 2001年8月 中国・北京市

満ちています。読むたびに胸の内からあつい塊がこみ上げてくる。その塊は私の中でゆっくりととけて、あたたかく包む。その中の1編。

石ころ

なあんか しらんけど
むしゃくしゃして
石ころをぼんと けた
石ころは怒りもせんと
黙ってころがってくれた

春になったら、また新しい水が流れそうです。

講演とシンポジウム

アジアの国の子どもの本

2月4日(日) 高知市で開催

この催しは、高知こどもの図書館・大阪国際児童文学館を育てる会・(財)大阪国際児童文学館の3者主催で、高知市の高知城ホールで開かれました。

絵本作家秋野玄左傘氏の講演「私の中のアジアを語る」のあと、シンポジウム「現代のアジアの子どもの本を語る～三つの国から～」が行われました。登壇者は季穎(児童少年出版社。聖和大学大学院在学中)、李慶子(作家、「アジア児童文学日本センター」会員)、ダイマス・ファイカー・ロー(シンガポール。聖和大学大学院在学中)の3氏で、それぞれ中国、韓国・朝鮮、シンガポールの児童文学事情について語りました。なおコーディネーターは大阪国際児童文学館の土居安子専門員でした。



99 台北大会のオープニング

いま話題の中国児童文学

中 由美子

1. 曹文軒と『サンサン』（原題『草房子』）

曹文軒は80年代に「未来の民族的性格を創り出すのが児童文学作家の本分である」と主張して新しい児童文学のリーダー的役割を果たし、過去に書かれてきたような単純な子ども像を否定し、一人の人間としての、苛酷な運命に立ち向かう強い少年像を創り出した。彼は70年代に短編を書き始め、90年代に入って長編を書く。『サンサン』はその2冊目。生まれ育った江蘇省の塩城という水郷地帯の貧しい農村を背景に、子ども時代に見聞きした物事や出会った人々をモチーフにして、人間を、人生を描いている。短編「少年アチュウ」では、「強い少年像」から更に一步踏みこんで、子どもの悪を描いているが、この善と悪のテーマは『サンサン』にも引き継がれ、人間とは善と悪がないまぜになった存在だと感じさせてくれる。なおこの作品は「草の家」というタイトルで映画化されている。

2. 中国のファンタジー

中国の児童文学界で今いちばんホットな話題はファンタジーだろう。童話作家の彭懿は来日後ファンタジーの研究を始め、帰国後はその創作、啓蒙書の執筆、日本のファンタジーの翻訳等を精力的にこなしている。リアリズムの作品しか書いてこなかった作家たちも、その影響を受けてファンタジーに挑戦し始め、次々と出版されている（「王子の船」班馬作／片桐園訳はそのうちの一つ）。90年代に入り数多くの長編が生まれたが、それは80年代に台頭してきた作家たちが力をつけてきたこと、雑誌『巨人』の復刊、中国政府が児童文学に力を入れはじめたという状況があったことで、それを受けて、彭懿から刺激を受けた作家たちがまた新しい自分の児童文学のスタイルを目指して歩き始めているというのが、20世紀終わりの中国児童文学の姿である。

[2000年10月15日、愛知県立大学で開かれた日本児童文学学会第39回研究大会のラウンドテーブル“アジアの児童文学を考える”で報告されたことを中心にまとめていただきました。編集部]

ニジクジラは海の虹

キム・ファン 文 あらたつとむ 絵
遊タイム出版 刊

梓 加依

この物語の主人公は、二つの国の名前を重ねて持つ女の子「両・古代・友子（リョウ・コダイトモコ）」。その子の存在の後には、日本と朝鮮半島の人たちとの歴史がよこたわっている。その関係は朝鮮半島の人たちにとっては、消すことのできない恨みと悲しみに満ちたものである。

日本人と在日朝鮮人とを親に持つ友子が、「ニジクジラ」と呼ばれる不思議なクジラと出会い、そのニジクジラを守るために朝鮮半島と日本の大人たちと戦っていく。「朝鮮人！」と違って差別する日本人の男の子と、丹後の海に伝わる幻の主クジラとを絡ませながらストーリーは展開する。この戦いは、友子自身の名前のルーツへの誇りを得る成長への戦いとなる。やがて、このニジクジラを守ることで同志となった男の子と心が通じ合う。

古代朝鮮半島と関わり深い丹後の海を背景に、重いテーマをファンタジー物語として温かいものに仕上げている。友子と男の子の関係の緊張したもの、なぜ取りのぞかれ心が繋がりに理解し合うことになるのかを、もう少しいねいに描いてほしかったが、大人たちの国の利益や政治的なものを越えて心を繋ぎ合いたいという思いを、子どもと動物に託した作者の願いはよく伝わってくる。

余計なことかもしれないと思いつつ、この作品に私が解説を引き受けたのは、在日朝鮮人が、日本人と結婚した同胞に対してこんなエールを送ることなど今までではなかったからである。時の流れともいえるが、作者は在日三世である。一世や二世では決してそれを許さなかったであろう。この作品を取り上げた新聞の中で彼はこう言っている。「たった五十数年間のトゲです」。彼は日本人に対してもう拳を振り上げてはいない。児童書がなかなか出版されない今、数少ない在日の若い書き手の作品が世に出たことを喜ぶとともに、日本人の私たちは彼の言葉に謝し、このトゲを抜く努力をしなければならない。

雪原のうさぎ

常 星児・原作 水上平吉・訳 久富正美・絵
石風社・刊

畑 中 圭 一

中国東北部の雪原の村。少年たちは家計の足しにと、野ウサギを捕まえてその皮を売る。それはまた男の子の知恵と勇気の証でもある。

母子家庭の少年シンズも母に頼まれてウサギ狩りをはじめた。しかし、仕掛けたワナにかかったウサギを結局逃がしてやる。家庭の貧しさ、友人たちの「よわむしシンズ」という揶揄——そういう状況のなかでなお、ウサギを捕まえて毛皮を売ることが拒否した少年の優しさと、小さな動物のいのちにも共感できる心の豊かさがしみじみと伝わってくる。

原作者の常星児(チャンソウアール)は1959年山東省生まれの作家。中学校の教師をつとめた後、現在は遼寧省彰武新聞社に勤務しながら少年小説を書いている。「片隅の花」「白さぎ別荘」などで冰心児童文学賞を、短編「金色の棟」で陳伯吹児童文学賞を受けているということである。この短い作品においても、一人の少年が迷い、苦しみながらもしっかりと命を見つめて生きて行く姿がリアルに形象化されている。

水上平吉の訳文は抑制のきいた詩的な文章で、独特のリズムがある。久富正美の絵は寒色系の色彩を主体に淡彩で仕上げられており、雪深い大地でくり広げられるドラマには効果的であるように思われる。

INFORMATION

雑誌『小さい旗』(北九州市)

第112号 (2001年新春)

◇台湾の童話「動物ことばほんやく機」(杜紫楓作、黄淑華絵、馬場与志子訳)

◇中国の童話「目」(于立極作、朱新昌絵、水上平吉訳)

◇中国の子どもの詩 5編 (水上平吉訳)
が掲載されているほか、柏木恵美子「ジシバリ」みずかみかずよ「雨あがりのポプラ」という2編の詩が中国長沙市の雑誌『小溪流』(2000年第10期)に翻訳・紹介されたというニュースも。

連絡先 北九州市八幡東区尾倉3-7-10 水上方
小さい旗の会

TEL・Fax 093-661-4488

雑誌『まゆ』(室蘭市)

第81号 (2000年12月)

◇翻訳「私の三部作」(蔣風作、笠原肇訳)

筆者の蔣風氏は中国児童文学をリードしてきた代表的な研究者。浙江師範大学の学長を務めたあと、現在は金華市で児童文学研究所を拠点に児童文学の振興に力を注いでいる。亜細亜児童文学学会の中国側副会長でもある。

この「私の三部作」はコーリキーの同名作品のタイトルを借りた自伝的回想記。今号が連載の第1回である。訳者の笠原氏は蔣風先生評伝の執筆をめざしておられ、この翻訳はその第1ステップということである。

連絡先 室蘭市八丁平4-25-25 笠原肇方
童房舎

Fine Asian Literature

【3月発売予定】

サンサン (桑桑)

曹文軒 中由美子訳

映画「草の家」 原作

今の子どもを、きのうの子どもと、さらには、あしたの子どもと比較しても、
みな同じであるというだけで、何も根本的な違いなどありえない

— 作家・北京大学教授 曹文軒 —

てらいんく

TEL045-410-1278 FAX 045-410-1279

書評

BOOK REVIEW

哈利・波特 与魔法石 (蘇農 訳)

成實 朋子

『哈利・波特 与魔法石』(人民文学出版社 蘇農訳)を読んだ。言わずと知れたJ. K. ローリング著『ハリー・ポッターと賢者の石』の中国語版である。世界的ベストセラーである同書の著作権獲得には、中国国内のいくつもの出版社が動いたと聞くが、最終的には大手の人民出版社からの出版となり、2000年9月、続編2冊とあわせてめでたく出版とあいなった。

さてこの中国語版ハリーポッターだが、日本語版とずいぶん印象が異なる。まず外観であるが、中国語版は表紙、裏表紙、挿絵などはScholastic社のものと同じで、一般的な児童書よりも一回り大きい。色彩豊かなイラストレーションが映え、他の書物と比べると格段におしゃれな印象である。頁を開けばハリーが描かれたしおりが挟まっており、お徳感満点の出来である。一方頁数は200弱、日本語版の2分の1にも満たず、抄訳か?と思わせるが、読んでいくとこれがしっかりとした全訳、大人の本よりも活字は小さいくらいである。

内容や語句の選び方についても違いが見える。まず題の『哈利・波特 与魔法石』だが、原題が“Harry Potter and the Philosopher's Stone”だから日本語版「賢者の石」の方がイメージには近い。ただアメリカ Scholastic社版では、アメリカ人になじみがあるよう“Sorcerer's Stone”(魔法使いの石)となっているから、あながち間違いではない。また魔法銀行を営んでいる「小鬼」は、「妖精」と訳されている。中国語の「妖精」は日本語の「妖怪」に近く、中国語の「鬼」は日本語の「幽霊」に近いからしかたがないが、原語の Goblinsとは少し違うイメージである。また人気シーンの一つ、魔法学校入学のためのグッズを買い揃えるところは、日本語版では各店の看板内容が枠で囲まれ、看板のように見えるが、中国版では字体が変わるだけである。ハリー・ポッターの特徴の一つとしてこの字体の変化があるが、日本版のそれが大きさも含めてかなり変化しているのに対し、中国語版の変化はオリジナルと同じでそれほど多くはない。

ここでは訳や装丁の違いをあげつらうつもりはない。ただこの中国語版を見て、両国におけるファンタジーのとらえられ方の違いを感じた。中国語版の出来は総じて悪くはない。オリジナルをそのまま訳しているのだから、「舶来物」らしいおしゃれさはたっぷりである。しかし日本版では字体は大きく、行間は広く、ふりがなをつけるといった子ども向けの配慮をし、挿絵などにも独自の工夫が見られるが、中国語版は活字が小さく、語句も決して簡単とは言えない。これでは中国語版を読んで楽しめるのはせいぜい高校生以上、それも相当学力のある人、ということになるだろう。

一昨年21世紀出版社から出版された大幻想シリーズをはじめとして、中国でもファンタジーの本が随分出版されるようになってきた。しかしそれはまだ根づいたものとは言えない。日本でファンタジーは一定の固定ファンを得ている。ファンタジーを読まない人でも、ファミコンなどを通じてファンタジーを受け入れる素地をもっている人は随分いるだろう。だからこそ日本でハリー・ポッターは受け入れられたのであり、日本語版にはそうした読者向けの配慮もあるように思える。中国ではファンタジーを買ったり読んだりする大人は未だ多くはない。実際こちらに伝わってくるのも、売れ行きよりも、教育者や作家のハリー・ポッター評価といった話が多い。中国にファンタジーを根づかせるきっかけになってほしい、出版界の新たな儲かる分野となってほしい、そんな願いが透けて見える。

ともあれ、本年度予定されている映画の公開が一つの鍵になるだろう。中国のファンタジーの今後がハリーにかかっている。

INFORMATION

『海外で翻訳出版された日本の子どもの本』
JBBY編・刊

JBBY(日本国際児童図書評議会)が1998年に刊行したブックリストで、収められた図書の総タイトル数は3073点にのぼる。このうちアジア諸国のは、韓国をはじめ12か国で翻訳・出版された図書が挙げられている。翻訳・出版点数が多いのは韓国(629点)と台湾(373点)で、それにインドネシア(108)、タイ(108)がつづき、中国は、香港を合わせても77点にとどまっている。一方、点数が少ないのはパキスタン、スリランカ、ベトナムで各1点である。

ワンコリア・カウントダウン21

京都在住の作家 キム・ファン さんは昨年末『ニジクジラは海の虹』を出版、地元の『京都新聞』に「複合姓を持つ少女の物語～重いテーマを心温まるファンタジーに」という見出しで大きく紹介されました。(書評の欄参照)そのキム・ファンさんから大晦日のユニークなカウントダウンについて、次のようなメッセージが寄せられました。

* * *

20世紀から21世紀にかわる日。南北に対立していた京都の5つの青年学生団体が手を携えて統一を願うイベントを成功させた。

その道のりは苦難の連続だった。イベントに向けて99年の1月に初会合を開いたが、前世紀の残した対立の「遺産」は若者の前に大きく立ちはだかり、イベントの開催は何度も暗礁に乗り上げた。が、歴史的な南北首脳会談で事態は一変した。「在日が統一しないのに、祖国統一なんて出来ませんよ！」イベントに参加していた青年が、私に熱く語った。

「統一を実現させようと思ったら、日本との友好にもっと力を入れなきゃ」前世紀のもうひとつの「遺産」が頭をよぎったのか、青年が私の言葉にあいづちをうたなかったことが気になった。

玉清を読む

笠原 肇

黄旻禎の「玉清在写什么？」(『児童文学研究』1999年第1期)の文章があまりにひどいので、私は「『玉清在写什么?』の評価は妥当か」という15枚ほどの意見文を書いて東洋大学中国学会報第6号に発表した。

河野孝之氏や中由美子氏にそれを送って読んでもらったところ、中氏から玉清に関する資料を4点ほどコピーで送っていただき、それをいま読んでいるところである。「画眉」という作品が批判の中心で、どうも文学の理解が我々と微妙な差があって、私など面白いと思いつつながら、違うんだなあ、玉清の実験の方が数段本質的なんだが、と思うのである。

「画眉」は教師と女生徒の恋愛感情を主軸にした面白い小説だと思うのだが、恋愛はやはりご法度なのだろう。李学斌は「作者自身がこれは師弟の恋愛物語ではないと強調しているのだ」という

指摘をしている。「その証拠に作者自身がしばしば作中に顔を出し、強引に物語を引っばっていくのがそれだ。」という部分で、私は李学斌の読みとりの力に感心した。確かに臆病に、若干恐るおそるこの物語を書いている、という雰囲気はある。玉清自身も、自分の踏み込みに自信が持てない、ということではなかろうか。一応「画眉」の粗訳は完成したが、これをどう日本語の小説にしたら通じるか。私はいまそのことで悩んでいる。最も現代の日本では絶対に通じない。少女田青も、教師陳路も日本には存在し得ない人物だからだ。それでも私は訳したいのだ。(2000.12.21.)

南北に吹く風を 真摯に受けとめたい

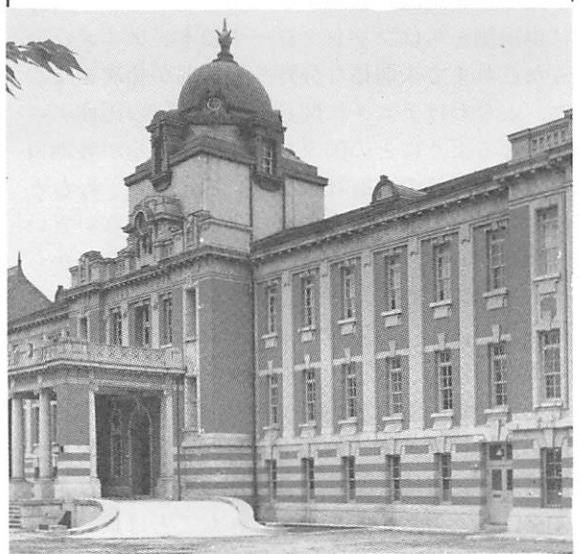
李 慶子

昨年6月、世界でたった一つ残った分断国家の我が祖国は、敵対から和解へと歴史的な一步を踏み出した。それは児童文学にも色濃く反映している。韓国で発行されている『児童文学評論』『オリニ文学』『朝の陽光』の各誌が統一時代の児童文学について言及している。なかでも李在徹氏の「もはや反共ではなく、南北の子どもが共有できる文学の創作が必要」に代表されるように統一文学の中身も大きく変わろうとしている。

北でも一昨年あたりから科学ファンタジーが目立つようになり、戦後生まれの作家たちがこうした作品を積極的に書いている。

南北に吹く風を真摯に受けとめたい。

総会の会場「名古屋市市政資料館」



中国児童文学美術シンポジウムに 参加して

成 實 朋 子

2000年10月、「中国児童文学美術シンポジウム」が中国の上海・蘇州で行われました。日本側の参加者は22名、日中児童文学美術交流センターの派遣によるものです。センター事務局長の中尾明氏をはじめ、鳥越信氏、きどのりこ氏など多数の児童文学作家や研究者、画家が参加しました。同センターではこのように日中両国の会員を相互に派遣してシンポジウム等を開き、両国の児童文学関係者が直接話し合う機会をつくっています。

10月20日、21日に行われた上海センター主催による上海会議は、ファンタジーとリアリズム等をテーマに発表が行われました。ファンタジーは最近中国でもっとも注目されている分野の一つで、折しも前年「大幻想シリーズ」と題する日本のファンタジーを紹介するシリーズが出版されたところでもあり、発表の多くはファンタジーの可能性に期待するというものでした。10月25日は場所を蘇州に移し、南京センター主催による会議が行われました。こちらは特にテーマは設けず、日中両国の児童文学関係者が直接話し合おうということで、文学組と絵本組に分かれて活発な討論が行われました。こちらは地元蘇州の幼稚園の先生たちも多数参加し、日本側が行った「紙芝居」などに興味関心が集まっていました。

両会議ともに参加者は非常に熱心で、会議後宿舎に集まって、日本側が持参した絵本などを見ながら深夜まで話が盛り上がり、翌日はフラフラということもありました。子どもの本ばなれや出版不況など、両国は共通する問題を抱えており、特に中国側からはファンタジーや絵本、アニメといったこれまで未開拓な分野への質問が相次ぎました。とりわけアニメに関しては、良質の国産アニメを作るようにとの国家レベルでの指示が各地の児童文学関係の出版社に出ているだけに、好むと好まざるとに関わらず作らなければならないという現状がうかがえました。けれど食欲に我々から多くのことを吸収しようとする中国側を見ると、我々は中国の児童文学をどれだけ日本に紹介し得たのかと、最近めっきり少なくなった中国児童文学関係の本に思いをはせたりもしました。

私は今回初めての参加でしたが、中国の児童文学関係者に直接会えたというだけでなく、日本の作家、画家の方々とはご一緒できたことは良い経験

となりました。作家や画家の方々が、どのように作品を紡ぎ出されるのか、その一端に触れたような気がします。

めっせーじ

©2002(2002)©2002(2002)©2002(2002)

『こだま』主宰の保坂登志子さんから

「子供たちが国境を越えて、こだまし合ってほしい」という願いから、世界のさまざまな国の子供の詩と大人の少年少女詩を集めた雑誌『こだま』（年2回発行）が1992年から発行されております。創刊号はホチキスどめの66頁というつましいものでしたが、2000年秋の第17号は162頁。海外の作品としてはヨーロッパのものもありますが、タイ、中国、朝鮮、韓国、台湾、ネパールなどアジアの国・地域の作品も数多く紹介されています。この『こだま』を松尾直美さんとともに10余年間編集・発行してこられた保坂登志子さんから次のようなメッセージが寄せられました。

* * *

「国際交流」という言葉がすでに日常的になったことは嬉しいことだと思います。ことにアジアの一員である私たちが、アジアの子供たちに目を向けることはごく自然なことです。アジアと向き合うことは、日本の過去と向き合うことにもなります。知り合うことを深めて通じ合い、信頼が生まれるのだと私は信じています。中国、台湾文学の翻訳を始めて十年余り、実に遅々とした仕事ではありますが、多くの児童文学に関わる人々や子供たちから、夢や希望を棄ててはならないことを教わりました。アジアの風が世界を巡り吹くことを願って、21世紀を歩みだします。

編集後記

アジア児童文学日本センターとしては、まずできるだけたくさん情報を集め、発信することに力を注ぎたいと思います。『アジアの風』はその具体的な第1歩です。幸い会員の皆さんがさまざまな情報を届けてくださったので、創刊号はかなり中身の濃いものになったと喜んでおります。ご協力に深く感謝しております。ひきつづき「風の便り」「めっせーじ」などいろんな情報を送ってください。

(はたなか)